

# 日本ヘーゲル学会「フロンティア研究部会」活動趣意書

2022年6月末日

フロンティア研究部会運営委員会

## 1. フロンティア研究部会のねらい

日本ヘーゲル学会の大会年一回化に伴い、研究活動の停滞が懸念される。長期的にみた場合、会員数の減少による学会の規模縮小が見込まれることから、従来とは異なる新たな方式の下で、会員による自主的な学会活動を広範に促進する必要がある。

一方で、従来の大会運営の場合では、理事会および事務局の負担が膨大となることが問題視されてきたため、持続的で柔軟な活動体勢を築くことが求められる。

また、近年では若手研究者が積極的に海外留学を行ない、国際的な水準で研究活動を展開する一方、国内の各地では新たな研究者が育ちつつある。部会は、こうした若手を中心とした研究／業績機会の増進を図りつつ、学会全体としての活性化を目指す機会としたい。また哲学領域の他分野や他の学術領域との積極的な交流も図り、ヘーゲル研究ネットワークの裾野を広げたい。

2020年来、コロナ禍の影響により学会活動も急速に変化を遂げており、Zoom などオンライン会議システムの利用が進んでいる。フロンティア研究部会では、こうしたデジタル化の利点を生かし、会員相互、学会内外のこれまで以上に柔軟で密接な交流を図る。

## 2. 運営方式（フロンティア研究部会運営委員会について）

日本ヘーゲル学会内に、担当理事一名と若干名の会員から構成されるフロンティア研究部会運営委員会を置く。フロンティア研究部会の運営には、基本的に運営委員会が携わる。ただし、運営委員以外の企画提案者による自主的な企画の場合は、その都度、提案者と委員からなる「運営チーム」を立ち上げ、共同で運営に当たる。

1. 発表希望および企画提案は、フロンティア研究部会運営委員会が受け付ける。
2. 運営委員会は、企画提案者と合同で「運営チーム」を立ち上げ、開催時期、内容、当日のプログラムについて調整する。
3. 企画種別については、「3. 企画種別」を参照のこと。

4. 「研究発表」、「研究構想発表」、「卒論・修論・博論構想発表会」については、フロンティア研究部会運営委員会が主となり、会場の手配またはオンラインミーティングの設定、発表・企画の調整、司会の依頼、および、当日の受付・オンラインサポートなどを行う。(以上の種別の発表者は原則、運営の責任を負う必要はないものとする。)
5. 「ワークショップ」、「合評会」および「その他」については、フロンティア研究部会運営委員会と企画提案者による合同の「運営チーム」が主となり、会場の手配またはオンラインミーティングの設定、発表・企画の調整、司会の依頼、および、当日の受付・オンラインサポートなどを行う。
6. 他の学会や研究会との共催によるジョイント企画の場合も、「運営チーム」によって運営を行う。
7. 運営委員会および運営チームは、開催日一ヶ月前までに当日のプログラムを決定し、広報を開始する。
8. 研究部会運営にあたり物品費や人的負担の軽減のための物件費が発生することも見すえ、運営委員会予算設置の検討を理事会において提起する予定。

### 3. 企画種別 (仮)

#### 【1】「研究発表」(個人、事前審査あり)

- 60分 (発表20分+ディスカッション40分)
- 90分 (発表45分+ディスカッション45分)

#### 【2】「研究構想発表」(個人、事前審査なし)

- 60分 (発表20分+ディスカッション40分)
- 90分 (発表45分+ディスカッション45分)

#### 【3】「卒論・修論・博論構想発表会」(個人、事前審査なし)

- 60分 (発表20分+ディスカッション40分)
- 90分 (発表45分+ディスカッション45分)

#### 【4】「ワークショップ」(2~5名ほどによる企画、事前審査あり)

- 1 件につき 2 時間～2 時間 30 分程度（目安）

#### **【5】「合評会」（2～5 名ほどによる企画、事前審査あり）**

- 1 件につき 2 時間～2 時間 30 分程度（目安）

#### **【6】その他、企画提案（事前審査あり）**

※「事前審査」は、担当理事による簡便な内容確認とする。

### **4. 企画提案者、発表者、参加者の範囲**

発表・企画は広くヘーゲルに関連するものとし、日本ヘーゲル学会会員の紹介により会員以外も発表・企画提案ができることとする。

参加者については、原則的に会員／非会員の区分を問わないが、発表・企画の性格および発表者・企画提案者の希望によっては会員に限定することがある。原則として非会員の参加者からの参加費は徴収しない。

### **5. 開催時期**

原則的に毎年 9 月に定例開催とする。12 月および 3 月は、発表者・企画提案者の希望に応じて開催する。

### **6. 開催形態**

基本的にはオンライン開催。ハイブリッド開催の場合、開催場所の確保について担当理事に相談。

### **7. 開催フロー**

- 発表・企画の申込は随時受け付ける。
- 9 月定例開催については、以下のフローを基本とする。

- ❖ 7月末：発表希望・企画提案の申込締め切り
  - ❖ 8月中旬：事前審査
  - ❖ 8月下旬：フロンティア研究部会開催の告知・宣伝開始
  - ❖ 9月下旬：フロンティア研究部会開催
- 12月開催の場合、以下のフローを基本とする。
- ❖ 10月末：発表希望・企画提案の申込締め切り
  - ❖ 11月中旬：事前審査
  - ❖ 11月下旬：フロンティア研究部会開催の告知・宣伝開始
  - ❖ 12月下旬：フロンティア研究部会開催
- 3月開催の場合、以下のフローを基本とする。
- ❖ 1月末：発表希望・企画提案の申込締め切り
  - ❖ 2月中旬：事前審査
  - ❖ 2月下旬：フロンティア研究部会開催の告知・宣伝開始
  - ❖ 3月下旬：フロンティア研究部会開催
- いずれの場合も、開催2ヶ月前を申込締め切りとする。
- 9月開催時に発表希望者が多い場合、12月ないし3月に回ってもらうことがある。
- 日程、〆切等について上記は目安であり、具体的には運営員会からの広報により会員に知らせる。

【開催フロー・イメージ図



## ・ 申込方法および内容について

発表希望者・企画提案者は、以下の項目をふくむ「発表希望」もしくは「企画提案」書式をフロンティア研究部会運営委員会に提出する。

### A. (1) 発表希望者もしくは企画提案者の氏名

(2) 所属

(3) 連絡先メールアドレス

(4) 日本ヘーゲル学会会員／非会員の区分

(5) 非会員の場合は会員の紹介者一名の氏名（会員に知り合いがない場合、運営委員会に相談する）。

### B. 「研究構想発表」および「卒論・修論・博論構想発表会」の場合、

上記 A に加えて、(6) **発表タイトル**も併せて提出する。

### C. 「研究発表」の場合、上記 A に加えて

(6) **発表タイトル**および

(7) **発表要旨（事前審査用、200~400 字程度）**も併せて提出する。

### D. 「ワークショップ」「合評会」「その他」の企画提案の場合、上記 A に加えて

(8) **企画構成案**（テーマ、発表者の構成、発表の簡単な内容など）も併せて提出する。

## 9. 申込の呼びかけについて

発表希望・企画提案の申込は随時受け付けるが、必要に応じて、申込期限の1ヶ月前に、ホームページやメーリングリストを通じて会員に対する呼び掛けを行う。また、それとは別に、毎回、ニューズレターおよび大会案内に告知を掲載する。

## 10. 案内文の掲載について

学会誌『ヘーゲル哲学研究』とホームページに、フロンティア研究部会の申込方法や運営上のルールについて、わかりやすい説明を掲載する。

## 11. 規約について

フロンティア研究部会の設置および活動は、学会規約第三条一、二、五、六に基づく。